

第88回 令和7年9月22日（月）

土曜日は野球部のVS横浜を観戦しました。相手もエースが登板して見ごたえのある試合でした。結果的には離れてしまいましたが、5回くらいまでは十分戦えていましたね。相手は日本一に最も近い高校ですから、健闘したのではないのでしょうか。横浜の伸びしろはまだまだあると感じました。ここを倒すことを目標に精進してください。

いまは定年後に再就職する人が増えているそうです。その中でうまくいかない人はどんな人かわかりますか？

I C Tが不得意な人もいますし、デスクワークが多くて体を使う仕事が苦手な人もいます。でも一番は以前の肩書を捨てられない人だそうです。

コミュニケーションができれば周囲の人がカバーをしてくれますが、カバーしたくない人もいます。「やってくれて当然だ」という態度を表に出す人です。

昔は部長だったとか、社長だったとか。アメリカの資格を取ったとか、表彰されたとか、その人の勲章はいろいろとあるのかもしれませんが。ですが肩書は名刺を渡さない限り相手には見えません。歩いている人が何かの日本記録保持者だったとしても、よほど有名でない限り周りはわかりませんし、どんな経歴でも時とともに忘れられていきます。

それを周囲に示そうとして「私はこのような人間だ」と威張る人がいます。その人が求められていけばいくつになってもポストはあります。それがなくなった時の切り替えが大事です。

役職は持っている人が偉くなったわけではなく、役割を担う順番が回ってきただけだと考えるべきです。自分が優秀だからこの役職に就けたのではありません。ほかに優秀な人はいくらでもいるし、積み重ねた実績は一人で作ったわけではありません。そこには必ず周囲の協力があつたはずで、優秀な人に支えられたからできたことがほとんどです。

初めて会う人が経歴を知らなくても感じるものこそ、人間として最も大事なものだと思います。誠実である、親切である、優しい、穏やかななどは語らなくてもわかるものです。

これを人間性と言います。

年を重ねていろいろなものが無くなっていきます。それは仕方がないことです。最後に残るのは人間性です。そこだけは死ぬまで失いたくありません。

私が通っているスポーツジムでも本当に優しくて人の好いおじいちゃんがあります。一方で譲り合おうともせずになんにも気に入らないことを周囲に大声で訴えるおじいちゃんもいます。明日は我が身ですがとても勉強になります。